

さらぐんじょうりいせき 讃良郡条里遺跡 (09-1) 現地公開資料

讃良郡条里遺跡は、寝屋川市・四條畷市にまたがって位置する東西約1.6km、南北約2.6kmの広大な遺跡です。

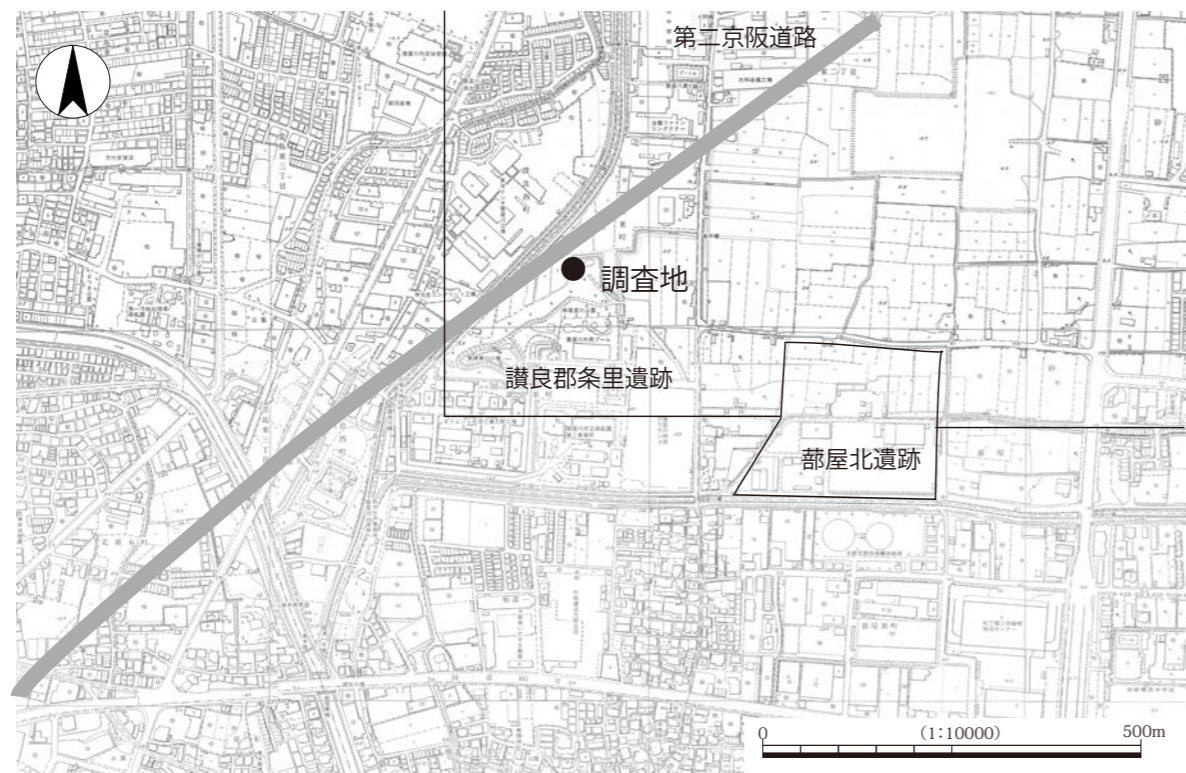
調査地の近くではこれまでに、北に隣接する第二京阪道路建設地や南東に位置するなわて水みらいセンターの建設地〔蔀屋北(しとみやきた)遺跡〕で発掘調査が行われました。これらの遺跡では、主に古墳時代から平安時代にかけてのムラがみつかっています。

今回は、昨年11月から大阪府寝屋川水系改修公営所による讃良立坑築造工事にともない、大阪府文化財センターが委託を受けて事前の発掘調査をしています。

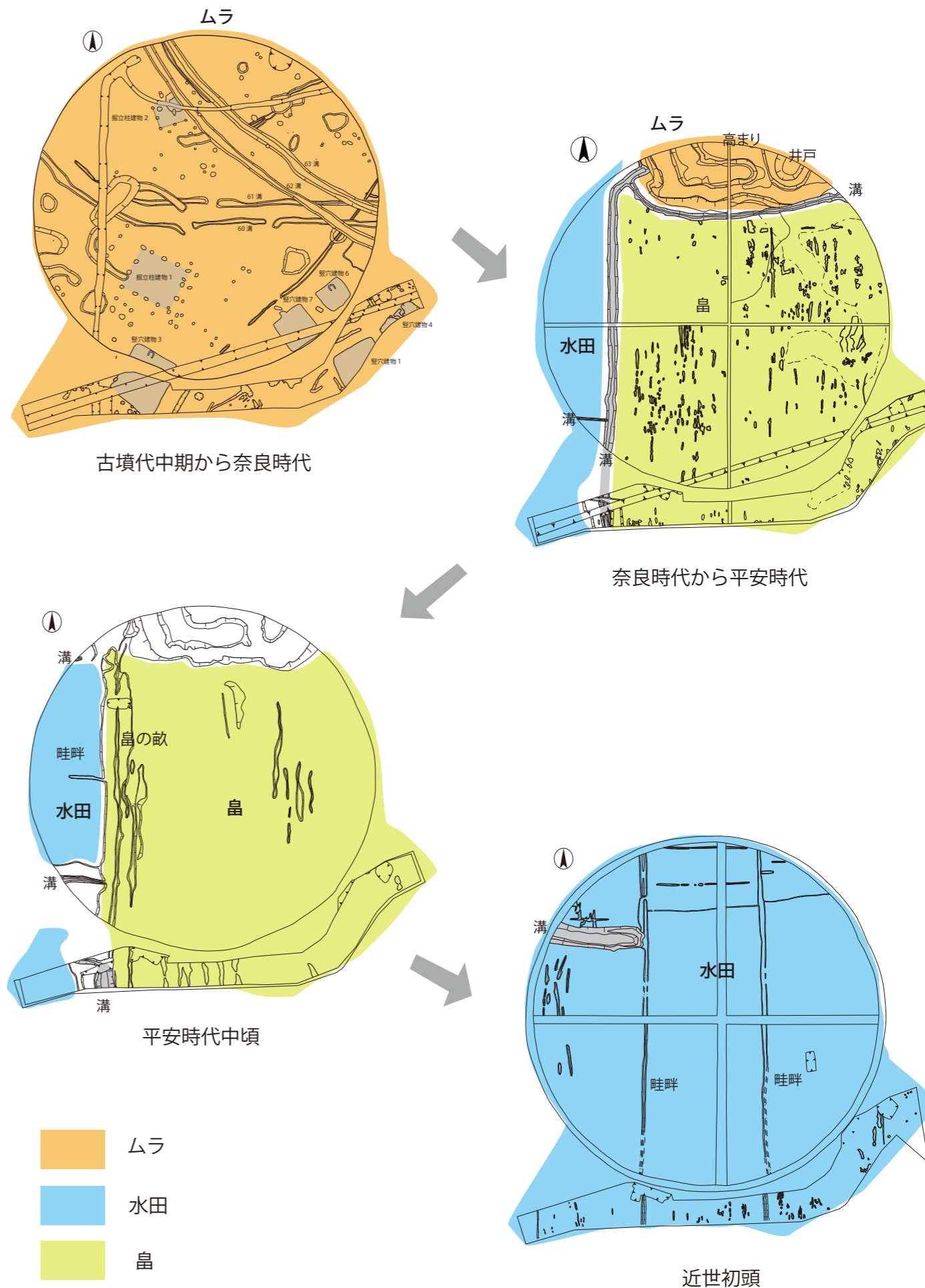
調査では、古墳時代中期から後期(今から1500～1600年前)の竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝がみつかりました。近隣の発掘調査で見つかったムラにつながると考えられます。溝はムラを区画するためのものだったのでしょうか。竪穴建物には、かまどが設置されているものもあります。かまどに甕をかけて、ご飯やおかずを煮炊きしていました。甕をささえる支脚に使った土器、炭や焼けた土がかまどの周りでみつかっています。

この古墳時代のムラが廃絶した後の状況もわかりました。平安時代まで水田や畠が営まれていたようです。奈良時代から平安時代にかけて、調査地の西側では水田を区画した畦畔(けいはん)がみつかり、東側では畝を立てて、畠をつくっていたことがわかりました。畝からは、植物の種がみつかっています。調査地の北側では土を盛って高まりをつくっており、高まりでは井戸やたくさんの土器がみつかりました。北側は人々が生活したムラの一部だったようです。

鎌倉時代には、この付近一帯が洪水にあい、砂や泥が堆積しました。一時は沼地のようになっていたようです。近世初頭になると再び、水田がつくられました。南北方向に水田を区画する畦畔や、東西方向の溝がみつかっています。



讃良郡条里遺跡 (今回の調査地)



調査地の土地利用の移り変わり



全景写真



60・61 溝 (古墳時代中期)

2条の溝が並行して見つかりました。この溝は通路の側溝であったと考えられます。溝の中からは通路が使われなくなった時に、据え置いた土器が見つかりました。



掘立柱建物 1

南北に3間、東西に4間の大きさの建物が見つかりました。



竪穴建物 6 (古墳時代中期)

住居には煮炊きをするためのかまどが造り付けられていました。

